主日礼拝　　2020年８月２３日（日）
題　「神の慈しみと厳しさ」
テキスト：ローマの信徒への手紙１１章：１１～２４節
（聖書の個所は最後にあります。）

厳しい暑さとコロナウィルスの感染で不安で疲れが溜まっておられる方も多いことと思います。神さまの慰めを祈ります。今日の宣教のテーマではないですが、「厳しいな～」と思うこともありますが、また同時に、主イエスは厳しい中にも共にいてくださることを思い、神さまの憐みを感じることができることは感謝だと思います。

さて、今日の聖書個所では、パウロは神の救いを信じなかったユダヤ人は、つまずいて倒れてしまったのかと、ローマの信徒の人たちに問うています。ユダヤ人とローマ人を含む異邦人に対して語られている個所です。
日本に住む者たちにも世界中の人々に当てはまる個所だと思います。

11:では、尋ねよう。ユダヤ人がつまずいたとは、倒れてしまったということなのか。「倒れる」とは、ふたたび起き上がって神の救いにあずかりえず、転落し、滅びることを意味していると言われます。パウロは、決してそうではない。断じてそうではないのだと言い切ります。ユダヤ人はつまずいて滅ぶのではなく「かえって、彼らの罪によって異邦人に救いがもたらされる結果になりました。」ということです。「罪」とは、単に悪い事をしたということではなく、「ハマルティア」であり、つまり生き方の的をはずしていたのだと言うのです。

いくら賢くても、熱心であっても、財産や地位があっても、的をはずすと最後はだいなしになるということです。パウロによればユダヤ人たちは、十字架のイエスを神から派遣された救い主キリストと認めることができず、自分たちの行いや業績に頼り、道を間違ったのです。つまり神を頼りとせず、自分を頼りとしたからです。

しかし、ユダヤ人は神さまの選ばれた民であり、決して見捨てられたのではないとパウロは考えています。パウロは同族のイスラエル人、ユダヤ人を心から大切にしていたのです。

「それは、彼らに ねたみを起こさせるためだったのです。」と言います。ユダヤ人の過ちが、異邦人が神の救いにあずかるチャンスとなったと考えたのだと思います。異邦人の救いは、神の民の役割でもあったということです。１２節の「彼らが皆救いにあずかる」とは、ギリシア語でプレローマという言葉で、

「完成」「成就」を意味しています。最後は、異邦人もユダヤ人も、国籍や民族を超えて、救われるという確信と希望をパウロは持っていたのです。

また、そのことを願ってパウロは主イエスを伝える伝道の旅を苦難の中続けて来たのです。パウロの心には、キリスト愛、十字架の愛が迫っていたのです。現在は、熱中症とコロナウィルス感染のことで、多くの人の心が弱っています。世界中が１００年に一度のパンでミックと言われます。わたしたちの力や努力だけではどうしようもない状態だと思えます。「神の慈しみと厳しさ」はあるのです。今こそ、心静め、謙虚になって、世界が連帯して歩めるように、神へのひたむきな祈りが必要なのです。イエス・キリストにあって全世界が救われる希望があるのです。

パウロは異邦人やユダヤ人の救いをオリーブの枝の「接ぎ木」を用いて説明しています。このたとえは受けとめかたがいろいろあるようです。

16:麦の初穂が聖なるものであれば、練り粉全体もそうであり、根が聖なるものであれば、枝もそうです。

ここは旧約聖書民数記１５章２０節、２１節（P238）の引用です。麦の初穂もそれで作られた練り粉全体も、つまり部分も全体も神への捧げものであること。根も枝も神への聖なる捧げものだということです。

「 17:しかし、ある枝が折り取られ、野生のオリーブであるあなたが、その代わりに接ぎ木され、根から豊かな養分を受けるようになったからといって、」とありますが、

「ある枝が折り取られ」、この「ある枝」とはユダヤ人のことで、「野生のオリーブであるあなたが、その代わりに接ぎ木され」とは、異邦人キリスト者、ローマにいる異邦人キリスト者で、ひいては時代を超え現在日本に住んでいるわたしたちのことでもあると受けとめてよいと思います。

つまり神の救いの歴史の中、ダヤヤ人が折り取られ、異邦人が接ぎ木されたのです。根本は神、神の子、イエス・キリストにあるのです。

18:折り取られた枝に対して誇ってはなりません。誇ったところで、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。

ローマの教会にはユダヤ人とローマ人・異邦人がいました。

ローマ人や異邦人キリスト者がユダヤ人に対して誇ってはいけないとのパウロの警告です。あなたがたがキリストを支えているのではなく、キリストが支えてくださっているからです。

19:すると、あなたは、「枝が折り取られたのは、わたしが接ぎ木されるためだった」と言うでしょう。 20:そのとおりです。ユダヤ人は、不信仰のために折り取られましたが、あなたは信仰によって立っています。思い上がってはなりません。むしろ恐れなさい。21:神は、自然に生えた枝を容赦されなかったとすれば、恐らくあなたをも容赦されないでしょう。

大切な個所です。自分たちが救われたと思って「思い上がってはならない。」ということ。「むしろ恐れなさい。」　倒れた人を見て、「それ見た事か」とか思ってはいけないのです。「むしろ恐れなさい。」　見下していると、神は思い上がった者を撃たれるのです。

22:だから、神の慈しみと厳しさを考えなさい。

口語訳聖書では「神の慈愛と峻厳とを見よ。」とあります。新改訳聖書では「見てごらんなさい。神のいつくしみときびしさを。」とあります。

今日、わたしたちに与えられた、神さまからの大切な言葉かけとして受けとめます。

倒れた者たちに対しては厳しさがあり、神の慈しみにとどまるかぎり、あなたに対しては慈しみがあるのです。もしとどまらないなら、あなたも切り取られるでしょう。不信仰の中に生きるのではなく、神の慈しみの中に留まり、住んで、つながっていることです。これはイエス・キリストに心つながることによって実現することです。もし心が離れていたら「イエスさま」と呼びかけて、イエス様に戻ればよいのです。主は「我に来よ。」と言ってくださっているのです。

創造主・すべての創り主であり、主イエスの父なる神さまは、今も、わたしたち日本に住む者たちを全世界中の人々を見ていてくださっているのです。
一日一日、神を信頼して、世界の連帯、世界が救われる祈りと希望を持って主の光と愛の中を生きて行きたいと願います。

◆異邦人の救い

11:では、尋ねよう。ユダヤ人がつまずいたとは、倒れてしまったということなのか。決してそうではない。かえって、彼らの罪によって異邦人に救いがもたらされる結果になりましたが、それは、彼らにねたみを起こさせるためだったのです。

12:彼らの罪が世の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのであれば、まして彼らが皆救いにあずかるとすれば、どんなにかすばらし

いことでしょう。
13:では、あなたがた異邦人に言います。わたしは異邦人のための使徒であるので、自分の務めを光栄に思います。
14:何とかして自分の同胞にねたみを起こさせ、その幾人かでも救いたいのです。
15:もし彼らの捨てられることが、世界の和解となるならば、彼らが受け入れられることは、死者の中からの命でなくて何でしょう。
16:麦の初穂が聖なるものであれば、練り粉全体もそうであり、根が聖なるものであれば、枝もそうです。
17:しかし、ある枝が折り取られ、野生のオリーブであるあなたが、その代わりに接ぎ木され、根から豊かな養分を受けるようになったからといって、
18:折り取られた枝に対して誇ってはなりません。誇ったところで、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。
19:すると、あなたは、「枝が折り取られたのは、わたしが接ぎ木されるためだった」と言うでしょう。
20:そのとおりです。ユダヤ人は、不信仰のために折り取られましたが、あなたは信仰によって立っています。思い上がってはなりません。むしろ恐れなさい。
21:神は、自然に生えた枝を容赦されなかったとすれば、恐らくあなたをも容赦されないでしょう。
22:だから、神の慈しみと厳しさを考えなさい。倒れた者たちに対しては厳しさがあり、神の慈しみにとどまるかぎり、あなたに対しては慈しみがあるのです。もしとどまらないなら、あなたも切り取られるでしょう。
23:彼らも、不信仰にとどまらないならば、接ぎ木されるでしょう。神は、彼らを再び接ぎ木することがおできになるのです。
24:もしあなたが、もともと野生であるオリーブの木から切り取られ、元の性質に反して、栽培されているオリーブの木に接ぎ木されたとすれば、まして、元からこのオリーブの木に付いていた枝は、どれほどたやすく元の木に接ぎ木されることでしょう。